

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課長 鈴木 岳明	電話番号	0852-22-5311
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	穴道湖自然館管理運営事務		
目的	(1) 対象	一般来館者、一般県民	
	(2) 意図	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通して、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	
事業概要	一般住民に対して広く学習機会を提供するため、指定管理者制度により施設の管理運営を行う。 指定管理者制度の円滑な運営にあたり、管理者との連絡調整や協定に基づく県運営事項（老朽化した設備の更新や修繕等）を実施する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 入館者数	目標値		105,000.0	105,000.0	105,000.0	105,000.0	人
		取組目標値						
	式・定義 穴道湖自然館の年間入館者数	実績値	124,164.0					
		達成率	—	—	—	—	—	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	—	—	—	—	—	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	114,539	110,787
うち一般財源 (千円)	113,030	109,266

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

従来から指定管理者は、イベントの開催（夜間開館など館内での催しや、館外イベントへの出展）や季節ごとのトピック展示（24回）、団体向けプログラムの実施（120回）により、魅力ある施設運営に努めている。
さらに、平成27年度からは特別展の開催回数を増やし（2回→3回）、特別展会期以外にも来館者満足度が高まるよう壁面展示を開始したほか、観察デッキの改修により屋外スペースも充実させるなど、来館者サービスの向上を目指した創意工夫が行われている。
また、学校や公民館への講師派遣（18回）により、水辺の生き物に対する興味関心と学習意欲の高場にも貢献している。
このような指定管理者による積極的な集客努力と、平成27年3月のマルチスペースリニューアルの効果により、年間入館者数は7年ぶりの12万人を超えとなった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成26～27年度に飼育設備改修工事を行ったことにより、長期的な維持保全に向けた設備改善がなされた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 飼育設備改修工事を終了現在も未整備部分が存在しており、突発的な修繕の必要が生じている。
 - 指定管理者が今後一層のサービス向上を図っていくための人員体制が十分ではない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 開館から15年を経て、施設設備・備品の老朽化が進んでいる。飼育設備改修工事により館内設備に関しては改善が見られるものの、外構設備や備品には更新や修繕を要するものが残っている。
 - 館内サービスの充実に加えて、講師派遣により地域への貢献の場を拡げているが、対応できる職員数が限られている。
- ③原因を解消するための「課題」
- 水生生物の飼育・展示という施設の性格上、設備機器等の小さな不具合でも運営の可否に直結する。したがって、速やかな更新・修繕及びそれに向けた費用の確保と、限られた予算内で運営に当たるためのコスト削減に取り組む必要がある。
 - 限られた職員により一層の効率的な運営を図っていくとともに、職員のさらなるスキルアップを進めていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 施設設備等の長期的な維持保全を念頭に、保全・改修費を含めたランニングコスト低減の見地に立って更新・修繕を行う。
- ゴビウスサポーター制度によるボランティアの育成と協働を推進し、長期的には専門知識・技術を持った人材育成を図る。
- 指定管理者が隣接地で運営する穴道湖グリーンパーク（鳥や昆虫の観察等）と一体となった情報発信を行い、両者が新鮮な話題を提供し続けることで相乗効果が生まれるよう取組を進める。
- 今後も親子で楽しめる展示をするための工夫を継続し、新しい試みを取り入れることでリピーターの増加を目指すとともに、子どもに対する学習機会の提供のため学校等の団体との連携強化を図る。

9. 追加評価（任意記載）

課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。